川越市案内図

蔵造りの町並み

埼玉県立浦和図書館
30021724
S
292.1
カワ

平成11年11月発行　川越市役所広報室

古紙配合率40%再生紙を使用しています。R40

◆川越市の町字名 （※は拡大図索引）

	町名	よみかた	地図索引
あ	安比奈新田	あいなしんでん	G-7
	旭町1～3丁目	あさひちょう	※B-15
	天沼新田	あまぬましんでん	G-3
	新宿	あらじゅく	L-8
	新宿町1～6丁目	あらじゅくまち	※C-15
	池辺	いけのべ	I-7
	伊佐沼	いさぬま	O-4
	石田	いしだ	M-3
	石田本郷	いしだほんごう	N-3
	石原町1・2丁目	いしわらまち	※B-10
	泉町	いずみちょう	O-7
	伊勢原町1～5丁目	いせはらちょう	G-5
	稲荷町	いなりちょう	N-10
	今泉	いまいずみ	P-8
	今成	いまなり	※A-11
	今福	いまふく	K-10
	牛子	うしこ	O-8
	上戸	うわど	I-4
	上戸新町	うわどしんまち	I-5
	扇河岸	おうぎがし	M-8
	大仙波	おおせんば	※E-19
	大仙波新田	おおせんばしんでん	L-8
	大塚新田	おおつかしんでん	K-8
	大手町	おおてまち	※C-11
	大仲居	おおなかい	O-6
	大袋	おおふくろ	I-8
	大袋新田	おおふくろしんでん	H-9
	小ヶ谷	おがや	J-5
	御成町	おなりちょう	※D-9
か	萱沼	かいぬま	R-9
	笠幡	かさはた	E-6
	柏原	かしわばら	F-8
	霞ヶ関北1～6丁目	かすみがせききた	H-4
	霞ヶ関東1～5丁目	かすみがせきひがし	I-5
	上老袋	かみおいぶくろ	P-2
	上新河岸	かみしんがし	N-8
	上寺山	かみてらやま	※A-10
	上野田町	かみのだまち	K-6
	上松原	かみまつばら	L-11
	鴨田	かもだ	O-3
	川越	かわごえ	※E-10
	川鶴1～3丁目	かわつる	F-5
	かわつる三芳野	かわつるみよしの	F-5
	岸	きし	M-9
	岸町1～3丁目	きしまち	※D-15
	北田島	きたたじま	N-3
	喜多町	きたまち	※C-10
	木野目	きのめ	O-8
	久下戸	くげど	Q-8
	鯨井	くじらい	J-3
	鯨井新田	くじらいしんでん	G-4
	久保町	くぼまち	※D-12
	熊野町	くまのちょう	N-10
	郭町1・2丁目	くるわまち	※D-11
	広栄町	こうえいちょう	※A-15
	小仙波	こせんば	※E-12
	小仙波町1～5丁目	こせんばまち	※D-12
	小堤	こづつみ	H-3
	寿町1・2丁目	ことぶきちょう	※A-14
	小中居	こなかい	P-7
	五味ヶ谷	ごみがや	G-2
	小室	こむろ	J-6
さ	幸町	さいわいちょう	※C-11
	三久保町	さんくぼちょう	※D-11
	三光町	さんこうちょう	※B-12
	鹿飼	ししかい	O-2
	志多町	したまち	※C-10
	渋井	しぶい	Q-9
	清水町	しみずちょう	N-10
	下赤坂	しもあかさか	L-12
	下老袋	しもおいぶくろ	Q-4
	下小坂	しもおさか	J-2
	下新河岸	しもしんがし	M-10
	下広谷	しもひろや	G-2
	下松原	しもまつばら	M-11
	城下町	しろしたまち	※E-10
	新富町1・2丁目	しんとみちょう	※C-13
	神明町	しんめいちょう	※C-10
	末広町1～3丁目	すえひろちょう	※B-11
	菅間	すがま	M-2
	菅原町	すがわらちょう	※C-14
	砂	すな	N-8
	砂久保	すなくぼ	L-9
	砂新田	すなしんでん	M-10
	砂新田1～4丁目	すなしんでん	M-9
	諏訪町	すわちょう	N-10
	仙波町1～4丁目	せんばまち	※D-14
た	高島	たかしま	O-6
	竹野	たけの	G-1
	田町	たまち	※B-12
	月吉町	つきよしちょう	※B-11
	寺井	てらい	※E-10
	寺尾	てらお	O-9
	寺山	てらやま	K-3
	東明寺	とうみょうじ	N-3
	通町	とおりまち	※C-13
	豊田新田	とよだしんでん	J-7
	豊田本	とよだほん	J-6
	問屋町	とんやまち	※A-13
な	中老袋	なかおいぶくろ	Q-3
	仲町	なかちょう	※C-11
	中原町1・2丁目	なかはらちょう	※C-12
	中福	なかふく	J-12
	並木	なみき	P-7
	並木新町	なみきしんまち	O-7
	並木西町	なみきにしまち	O-7
	西小仙波町1・2丁目	にしこせんばまち	※D-12
	日東町	にっとうちょう	H-8
	野田	のだ	※A-12
	野田町1・2丁目	のだまち	※B-13
は	東田町	ひがしたまち	※B-13
	東本宿	ひがしほんじゅく	Q-3
	氷川町	ひかわちょう	※D-10
	平塚	ひらつか	K-2
	平塚新田	ひらつかしんでん	K-1
	府川	ふかわ	L-2
	福田	ふくだ	K-1
	藤倉	ふじくら	H-9
	藤間	ふじま	N-10
	富士見	ふじみ	G-1
	富士見町	ふじみちょう	※D-14
	藤原町	ふじわらちょう	N-9
	古市場	ふるいちば	P-9
	古谷上	ふるやかみ	P-5
	古谷本郷	ふるやほんごう	R-7
ま	増形	ますかた	G-8
	松江町1・2丁目	まつえちょう	※C-11
	松郷	まつごう	※E-11
	的場	まとば	H-6
	的場1・2丁目	まとば	G-6
	的場北1・2丁目	まとばきた	H-5
	的場新町	まとばしんまち	G-5
	南大塚	みなみおおつか	J-9
	南台1～3丁目	みなみだい	I-9
	南田島	みなみたじま	N-7
	南通町	みなみとおりまち	※C-13
	宮下町1・2丁目	みやしたまち	※D-10
	宮元町	みやもとちょう	※C-9
	元町1・2丁目	もとまち	※C-11
や	八ツ島	やつしま	O-6
	谷中	やなか	M-3
	山城	やましろ	I-9
	山田	やまだ	※B-9
	吉田	よしだ	H-4
	吉田新町1～3丁目	よしだしんまち	G-5
	芳野台1・2丁目	よしのだい	O-2
	四都野台	よつやだい	K-8
ら	連雀町	れんじゃくちょう	※C-12
	六軒町1・2丁目	ろっけんまち	※B-12
わ	脇田新町	わきたしんまち	※B-14
	脇田本町	わきたほんまち	※C-14
	脇田町	わきたまち	※C-13

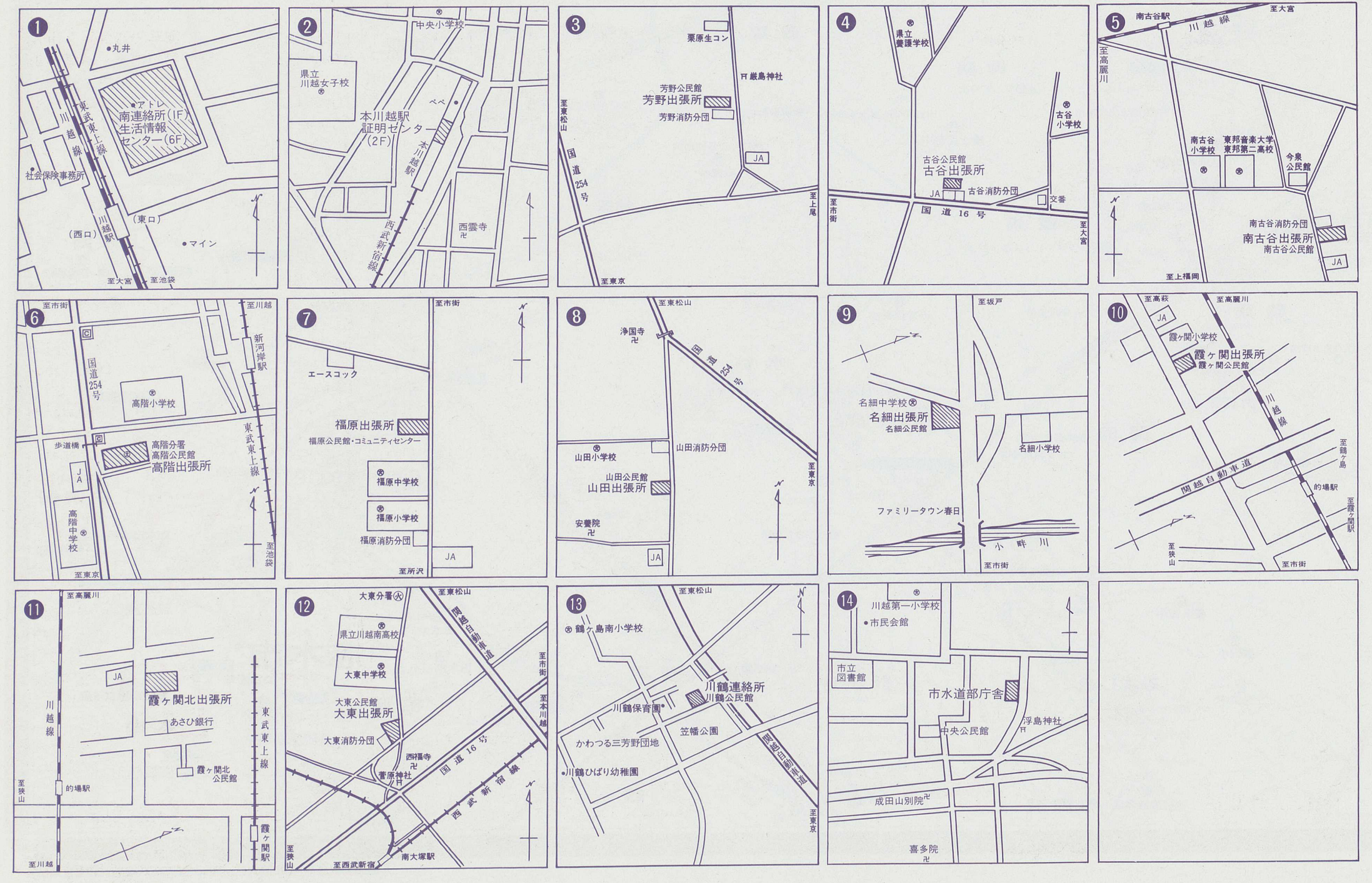
◆施設ガイド （※は拡大図索引）

市の主な施設	電話番号	索引
川越市役所	24-8811	※D-11
市水道部庁舎	23-3061	※D-11
南連絡所	26-7031	※C-14
本川越駅証明センター	26-8136	※C-13
芳野出張所	22-0527	※F-9
古谷出張所	35-2621	P-6
南古谷出張所	35-1835	P-8
高階出張所	42-0600	M-9
福原出張所	43-4015	K-10
大東出張所	43-3426	J-8
霞ヶ関出張所	31-2102	G-6
川鶴連絡所	33-6910	F-5
霞ヶ関北出張所	31-0221	H-5
名細出張所	31-2202	H-3
山田出張所	22-0693	L-3
中央公民館	22-1394	※D-11
中央公民館分室	24-1343	※C-12
南公民館	43-0038	※C-14
北公民館	22-1400	※D-10
芳野公民館	22-1873	※D-9
古谷公民館	35-1834	P-6
南古谷公民館	35-1519	P-8
高階公民館	42-6064	M-9
高階南公民館	45-3581	N-9
福原公民館（福原コミュニティセンター）	42-5005	K-10
大東公民館	43-0022	J-8
大東南公民館	42-0498	J-9
霞ヶ関公民館	31-1009	G-6
川鶴公民館	33-9306	F-5
霞ヶ関北公民館	31-4455	H-5
名細公民館	31-0001	H-3
下広谷南公民館	31-6402	H-3
山田公民館	24-4194	L-3
市民会館（やまぶき会館）	22-4678	※D-11
メルト（西文化会館）	33-6711	I-4
ジョイフル（南文化会館）	48-4115	L-10
市立図書館	22-0559	※D-11
霞ヶ関南分室(霞ヶ関南小学校内)	33-8544	F-7
市立博物館	22-5399	※D-10
蔵造り資料館	25-4287	※C-11
児童センターこどもの城	25-7288	※B-11
農業ふれあいセンター	26-6551	O-4
婦人会館	42-6346	※A-14
みよしの授産学園	25-2519	※D-10
オアシス（総合福祉センター）	28-0200	※E-11
東後楽会館	24-3366	O-5
西後楽会館	32-6177	E-7
武道館	24-7220	※D-10
市民体育館	23-0103	※D-10
川越運動公園陸上競技場	24-8881	P-4
川越運動公園総合体育館	24-8765	P-4
サンライフ川越（芳野台体育館）	25-5445	P-2
公園管理事務所	22-1301	※D-11
総合保健センター	24-8611	J-5
川越市立診療所	24-2648	※E-11
川越市休日急患診療所	23-0601	※E-11
清掃事業所	23-0912	※E-12
東清掃センター	23-2645	O-2
リサイクルセンター	23-8200	O-2
西清掃センター	32-8744	E-7
消防本部	22-0700㈹	※B-9
県・国の主な施設	**電話番号**	**索引**
西部生活センター	44-1110	※C-15
川越警察署	24-0110	※E-13
勤労青少年ホーム	22-5241	※D-11
県立川越図書館	44-5602	※C-15
川越保健所	24-0380	※C-9
川越水上公園	41-2241	I-6
パスポートセンター川越支所(アトレ7F)	29-1520	※C-14
西部地域障害者雇用支援センター	44-5125	※B-14
川越税務署	35-9411	P-7
川越公共職業安定所	42-0197	※A-14
浦和地方法務局川越支局	43-3824	※A-14
川越労働基準監督署	42-0891	※A-14
川越郵便局	25-5211	※D-11
川越西郵便局	41-7112	※A-13
浦和地方裁判所川越支部	25-3500	※D-10
その他	**電話番号**	**索引**
社会福祉協議会(オアシス内)	25-5703	※E-11
シルバー人材センター	22-2075	※D-11
商工会議所	22-3100	※C-11
埼玉川越総合地方卸売市場	40-2246	H-8

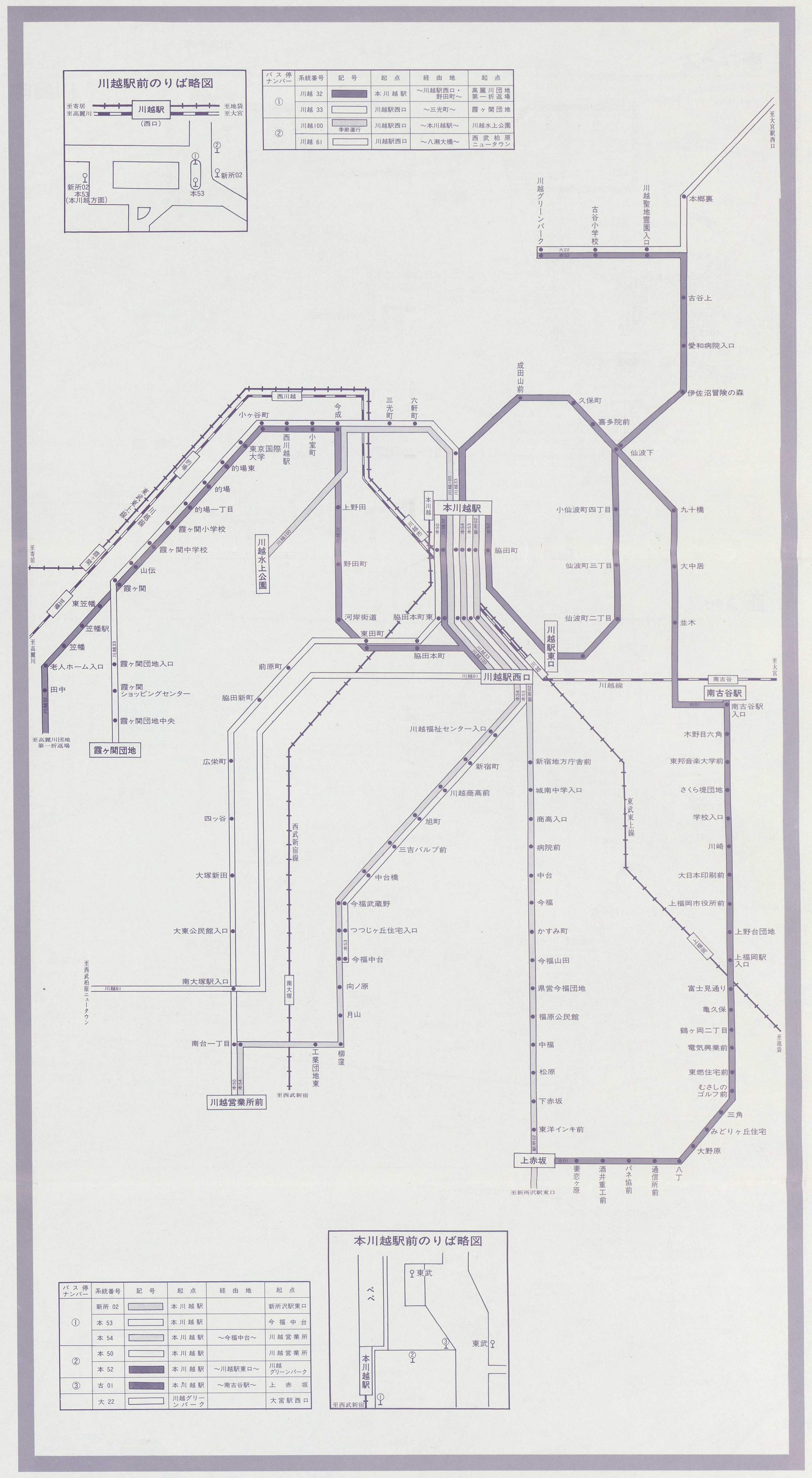
市の木　かし
市の花　山吹
市の鳥　雁

◆出張所・連絡所・水道部庁舎案内図◆

❶南連絡所 ❷本川越駅証明センター ❸芳野 ❹古谷 ❺南古谷 ❻高階 ❼福原 ❽山田 ❾名細 ❿霞ヶ関 ⓫霞ヶ関北 ⓬大東 ⓭川鶴連絡所 ⓮水道部庁舎


中央小学校
南古谷駅
川越線
至大宮

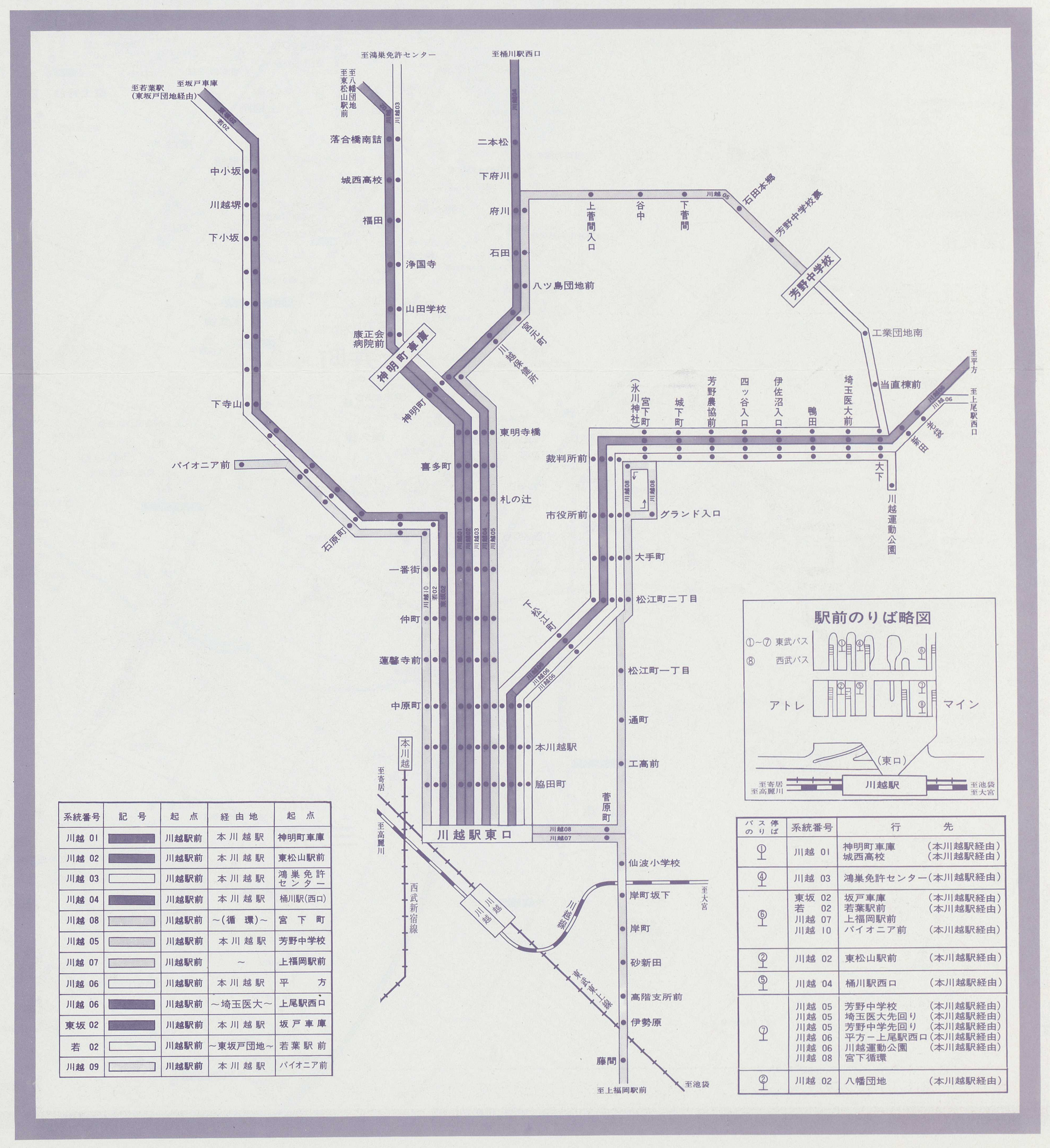
●西武バス　川越営業所　川越市南台1-3-6 ☎44-1155㈹


川越駅前のりば略図
川越駅
(西口)
至寄居
至高麗川
至池袋
至大宮
新所02
本53
(本川越方面)
本川越駅前のりば略図
本川越駅
東武
至西武新宿
本川越駅
川越駅西口
川越駅東口
南古谷駅
上赤坂
霞ヶ関団地
川越営業所前
川越水上公園
川越グリーンパーク
古谷小学校
川越聖地霊園入口
本郷裏
古谷上
愛和病院入口
伊佐沼冒険の森
成田山前
久保町
喜多院前
仙波下
九十橋
大中居
並木
小仙波町四丁目
仙波町三丁目
仙波町二丁目
脇田町
小ヶ谷町
今成
三光町
六軒町
西川越駅
小室町
東京国際大学
的場東
的場
的場一丁目
霞ヶ関小学校
霞ヶ関中学校
山伝
霞ヶ関
東笠幡
笠幡駅
笠幡
老人ホーム入口
田中
至高麗川団地第一折返場
霞ヶ関団地入口
霞ヶ関ショッピングセンター
霞ヶ関団地中央
上野田
野田町
河岸街道
脇田本町東
東田町
脇田本町
前原町
脇田新町
広栄町
四ッ谷
大塚新田
大東公民館入口
南大塚駅入口
南台一丁目
至西武柏原ニュータウン
工業団地東
柳窪
月山
向ノ原
今福中台
つつじヶ丘住宅入口
今福武蔵野
中台橋
三吉バルブ前
旭町
川越商高前
新宿町
川越福祉センター入口
新宿地方庁舎前
城南中学入口
商高入口
病院前
中台
今福
かすみ町
今福山田
県営今福団地
福原公民館
中福
松原
下赤坂
東洋インキ前
妻恋ヶ原
酒井重工前
バネ協前
通信所前
八丁
大野原
みどりヶ丘住宅
三角
むさしのゴルフ前
東燃住宅前
電気興業前
鶴ヶ岡二丁目
亀久保
富士見通り
上福岡駅入口
上野台団地
上福岡市役所前
大日本印刷前
川崎
学校入口
さくら堤団地
東邦音楽大学前
木野目六角
南古谷駅入口
西武新宿線
東武東上線
川越線
至大宮駅西口
至新所沢駅東口
至西武新宿
至池袋

バス停ナンバー	系統番号	起点	経由地	起点
①	川越32	本川越駅	～川越駅西口・野田町～	高麗川団地第一折返場
	川越33	川越駅西口	～三光町～	霞ヶ関団地
②	川越100 季節運行	川越駅西口	～本川越駅～	川越水上公園
	川越61	川越駅西口	～八瀬大橋～	西武柏原ニュータウン

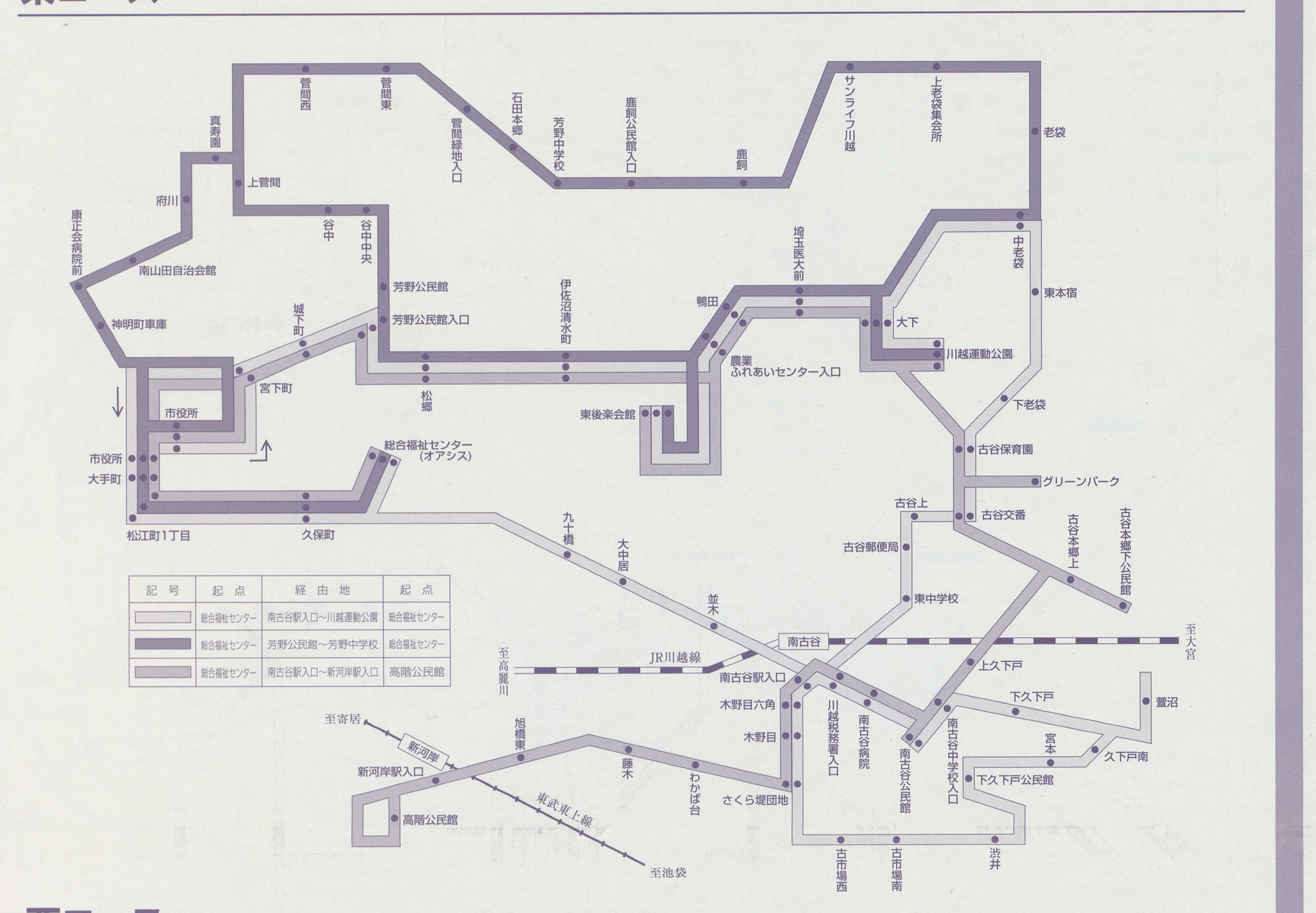
バス停ナンバー	系統番号	起点	経由地	起点
①	新所02	本川越駅		新所沢駅東口
	本53	本川越駅		今福中台
	本54	本川越駅	～今福中台～	川越営業所
②	本50	本川越駅		川越営業所
	本52	本川越駅	～川越駅東口～	川越グリーンパーク
③	古01	本川越駅	～南古谷駅～	上赤坂
	大22	川越グリーンパーク		大宮駅西口

●東武バス　川越営業所　川越市神明町14-8 ☎22-0671㈹

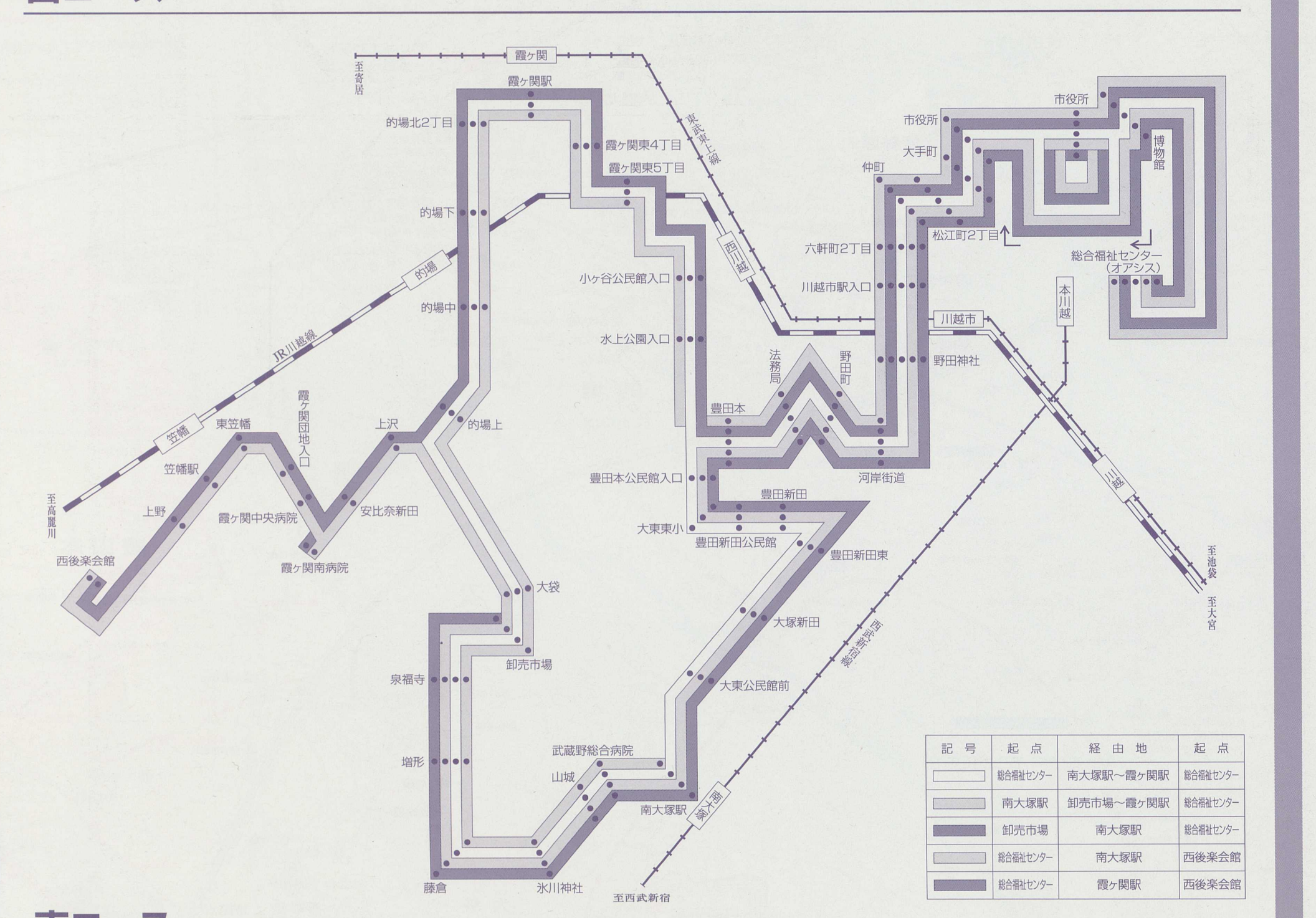

至滝巣免許センター
至桶川駅西口
至若葉駅
至坂戸車庫
(東坂戸団地経由)
駅前のりば略図
川越駅
川越駅東口
川越駅西口
アトレ
マイン

●川越シャトル（市内循環バス）川越市役所政策企画部総合交通政策課 ☎24-8811(内線2131)

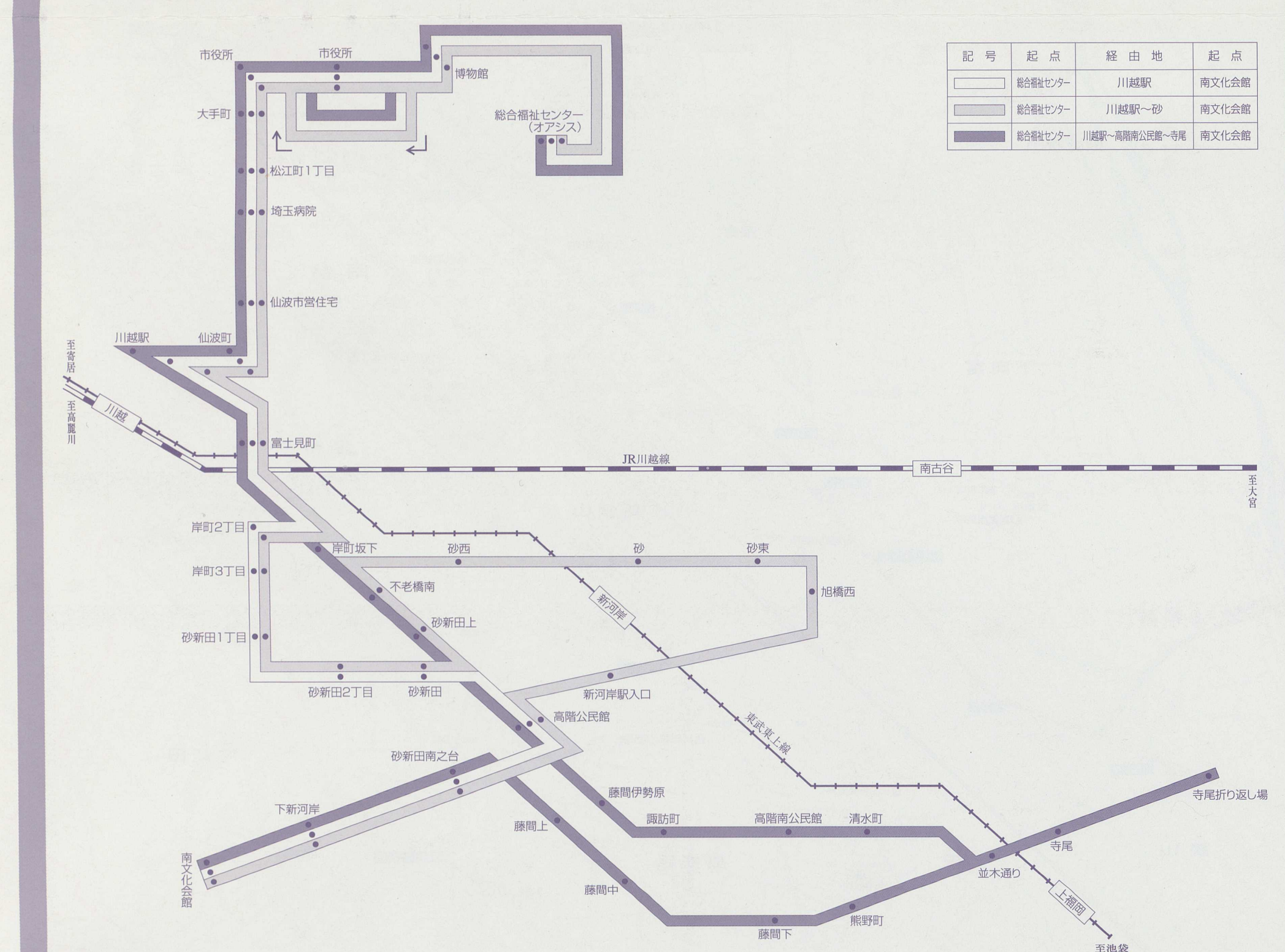
東コース


市役所
大手町
松江町1丁目
久保町
総合福祉センター(オアシス)
神明町車庫
南山田自治会館
府川
上菅間
菅間
菅間東
菅間緑地入口
石田本郷
芳野中学校
鹿飼公民館入口
鹿飼
サンライフ川越
上老袋集会所
老袋
中老袋
東本宿
下老袋
芳野公民館
芳野公民館入口
伊佐沼清水町
増形
鴨田
農業ふれあいセンター入口
東後楽会館
大下
川越運動公園
古谷保育園
グリーンパーク
古谷上
古谷交番
九十曲
大中居
並木
南古谷
JR川越線
木野目六角
木野目
南古谷駅入口
川越製鋼前入口
南古谷公民館
南古谷中学校入口
下久下戸
久下戸南
下久下戸公民館
さくら堤団地
新河岸駅入口
高階公民館
古市場西
古市場南
渋井
東武東上線
至池袋
至大宮

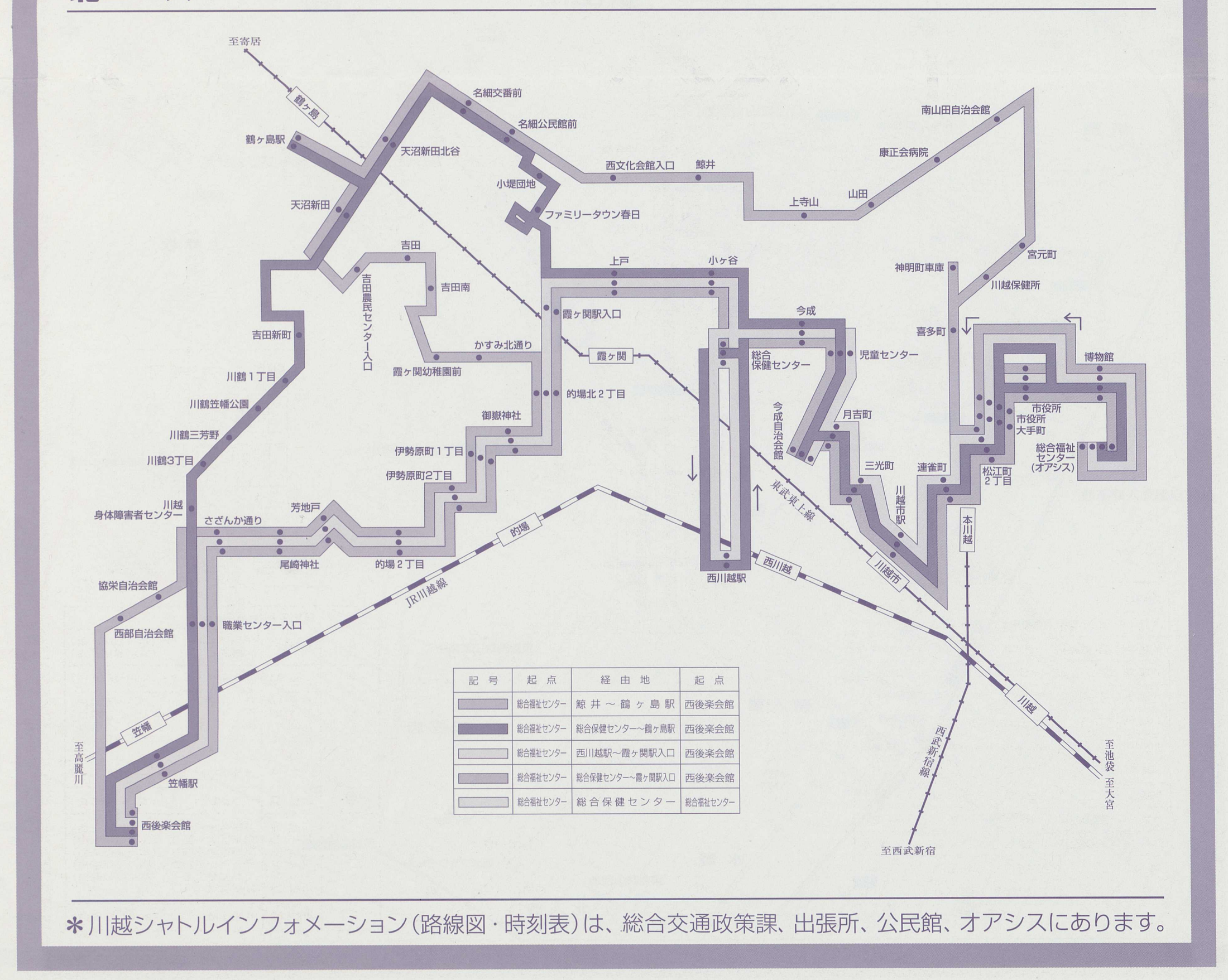
西コース


霞ヶ関
霞ヶ関駅
的場北2丁目
的場東
的場中
霞ヶ関東4丁目
霞ヶ関東5丁目
小ヶ谷公民館入口
水上公園入口
川越市駅入口
六軒町2丁目
松江町2丁目
仲町
大手町
市役所
博物館
総合福祉センター(オアシス)
本川越
川越市
野田神社
河岸街道
豊田本
豊田新田
豊田本公民館入口
大東東小
豊田新田公民館
大塚新田
大東南公民館
武蔵野総合病院
南大塚駅
山城
氷川神社
藤倉
増形
卸売市場
大袋
的場上
安比奈新田
霞ヶ関中央病院
霞ヶ関南病院
上野
笠幡駅
東笠幡
西後楽会館
JR川越線
至高麗川
至大宮

南コース


市役所
大手町
博物館
総合福祉センター(オアシス)
松江町1丁目
埼玉病院
仙波市営住宅
川越駅
仙波町
富士見町
岸町2丁目
岸町3丁目
砂新田1丁目
砂新田2丁目
岸町坂下
不老橋南
砂新田上
砂新田南之台
高階公民館
新河岸駅入口
砂
砂東
加橋西
下新河岸
南文化会館
藤間上
藤間中
藤間下
藤間伊勢原
諏訪町
高階南公民館
清水町
寺尾
並木通り
寺尾折り返し場
熊野町
JR川越線
南古谷
至大宮
至池袋

北コース


名細文書館
名細公民館前
天沼新田北谷
鶴ヶ島駅
天沼新田
小堤
ファミリータウン春日
西文化会館入口
鯨井
上寺山
山田
南山田自治会館
康正会病院
神明町車庫
宮元町
川越保健所
喜多町
博物館
市役所
大手町
総合福祉センター(オアシス)
松江町2丁目
連雀町
三光町
月吉町
今成自治会館
今成
児童センター
総合保健センター
西川越駅
小ヶ谷
上戸
霞ヶ関
霞ヶ関駅入口
的場北2丁目
かすみ北通り
霞ヶ関出張所前
御嶽神社
伊勢原町1丁目
伊勢原町2丁目
芳地戸
尾崎神社
的場2丁目
吉田
吉田自治会館
吉田新町
川鶴1丁目
川鶴笠幡公園
川鶴三芳野
川鶴3丁目
身体障害者センター
さざんか通り
職業センター入口
協栄自治会館
西部自治会館
笠幡駅
西後楽会館
JR川越線
東武東上線
至大宮
至池袋

＊川越シャトルインフォメーション(路線図・時刻表)は、総合交通政策課、出張所、公民館、オアシスにあります。

◆川越市の歴史のあらまし◆

川越市は武蔵野台地の東北端に位置し、入間川が市域の西・北および東側を流れている。台地上には多くの遺跡が点在し、旧石器時代以来、人々が生活を営んできたことをうかがうことができる。縄文時代の遺跡は仙波、下小坂地区周辺に、弥生時代の集落跡は的場地区において確認されている。古墳時代には下小坂、的場、南大塚、仙波地区などの台地上に展開する傾向があり、それぞれに大小の古墳群が形成されている。奈良時代に入ると、都と武蔵国府を結ぶ「東山道武蔵路」が整備され、沿道にあたる入間川右岸に集落跡が増える。「霞ヶ関遺跡」付近には「入間郡衙」の存在も推定されている。平安時代には上戸・仙波地区に集落が集中する傾向があり、これらの集落を基盤に荘園が発達し、やがてこれらの実権を握った武蔵武士が台頭するようになった。

なかでも、桓武平氏・秩父氏の流れをくむ河越氏は上戸に居館を構え、この地に基盤を固めた。その後、河越重頼が鎌倉幕府の御家人に登用されたのをはじめ、娘は源義経の正妻に、子重員は「武蔵国留守所総検校職」に任ぜられるなど権勢を誇った。また、平安時代に開山された星野山無量寿寺の中院は、尊海僧正によって当時の天皇の勅願所となり、関東天台の末寺580余を統括する勢力を持っていたといわれている。

長禄元年（1457）に上杉持朝の命によって、家臣の太田道真・道灌父子が河越城を築くとともに、川越の中心は入間川東部の現在地に移った。上杉氏は6代、次いで後北条氏が4代を数え、この上杉、後北条の交替の時期に起こったのが、有名な天文15年（1546）の河越夜戦である。河越城を守る北条綱成とその援軍である北条氏康軍8千が、上杉朝定・憲政と古河公方足利晴氏の8万もの連合軍を打ち破って快勝した。城下では後北条氏の末期ごろから家臣団の集住が進み、城下町の形成が始まった。

天正18年(1590)、徳川家康の関東入部に伴い川越藩が置かれた。川越は江戸城の北の守りであり、豊富な物資の供給地として重要だったため、幕府はここに、親藩・普代の有力大名を配置した。8家21人の川越藩主のうち、老中には酒井忠利・酒井忠勝(後に大老)・堀田正盛・松平信綱・秋元喬知・秋元涼朝・松平康英の7人が数えられる。また、喜多院は、慶長4年(1599)に天海が27世住職となることによって、元和6年（1620）には500石の御朱印寺となり、その後江戸城紅葉山の別殿を移し、寺運が大いに栄えた。

松平信綱は城下の町割を行い、十か町四門前・郷分の行政区画が定められた。さらに川越街道の整備・新河岸川舟運の開設・野火止の新田開発など、その事績にはみるべきものが多かった。柳沢吉保の時代には三富地方の開拓の地割りが行われ、秋元喬知は殖産に力を注ぎ、川越織物発展の基礎をつくった。

結城秀康を祖とする松平大和守家は斉典の時代に最大領高の17万石を数え、7代約100年にわたって藩主を務めた。「全国御城地繁花鑑」に前頭12位を占め、「小江戸」と呼ばれる繁栄をみせたのはこのころである。この繁栄は、新河岸川を通して江戸に物資を輸送した城下町商業の発展に負うもので、毎月九斎市が開かれ、業種別の十組仲間が株仲間を組織していた。また、十か町の総鎮守の氷川神社の祭礼には、江戸の天下祭をそのままに模した盛大な山車が、町衆によってひき回された。松平大和守斉典は藩学「講学所」を創立して学問を奨励し、『川越版日本外史』を版行した。しかし、幕末になって異国船が渡来すると、川越藩は相州浦賀や品川御台場の警備に藩兵を派遣するなど多端となり、次いで松平周防守康英のとき明治維新を迎え、明治4年に廃藩となった。

明治になってからは城下町時代の伝統もあって、川越は埼玉県第一の商業都市として大いにその実力を発揮したが、主たるものは穀物の集散で、織物・たんすも特産物であった。明治26年には、町の3分の1以上を焼失する大火に見舞われたが、直ちに土蔵造りの店舗を続々と建設し、今日残るような蔵造りの町並み景観を形成していった。大正11年には、埼玉県内では一番最初に市制を施行し、昭和30年には隣接する9か村を合併し、一躍広大な市域となった。近年は交通も至便で道路も完備されてきたので、工業団地、問屋団地、住宅団地も次々と建設され、平成10年7月には人口32万5千人を超え、県下でも有数の都市として発展。また、歴史・文化財・町並み景観などを楽しみに、観光客も多数訪れている。

◆川越の歴史年表◆

区分	時代	西暦	年号	できごと
原始	旧石器	旧石器時代		関東ローム層が形成される 砂川遺跡（所沢市） 鶴ヶ丘遺跡（川越市）
	縄文	縄文時代		打越貝塚（富士見市） 水子貝塚（富士見市） 上福岡貝塚（上福岡市） 寺尾貝塚（川越市寺尾） 小仙波貝塚（川越市小仙波町） 賀ヶ良遺跡（川越市笠幡） 登戸遺跡（川越市下小坂） 丸木舟川越市老袋より出土
	弥生	弥生時代		鶴ヶ丘遺跡（川越市鯨井新田） 霞ヶ関遺跡（川越市的場） 登戸遺跡（川越市下小坂） 上組遺跡（川越市笠幡）
古代	大和			熊野神社古墳（桶川市） 三変稲荷神社古墳（川越市小仙波町） 下小坂古墳群（川越市下小坂） 西原古墳（川越市下小坂） 牛塚古墳（川越市的場） 的場古墳群（川越市的場） 慈眼堂古墳（喜多院境内） 南大塚古墳群（川越市南大塚） 霞ヶ関遺跡（川越市的場） 仙波遺跡（川越市小仙波町） 新宿遺跡（川越市新宿町）
		538	欽明7	百済より仏教が伝わる
		593	推古元	聖徳太子が摂政となる
		607	推古15	小野妹子らを隋に派遣する
		630	舒明2	遣唐使始める
		645	大化元	大化の改新
		666	天智5	百済渡来人を東国に移す
		684	天武13	百済渡来人の僧俗23人を武蔵国に移す
		687	持統元	新羅渡来人22人を武蔵国に移す
		690	持統4	新羅渡来人12人を武蔵国に移す
		701	大宝元	大宝律令制定される
		708	和銅元	秩父郡より和銅を献上する
	奈良	710	和銅3	都を奈良（平城京）に移す
		716	霊亀2	駿河等7国の高麗人1,799人を武蔵に移し高麗郡を置く
		723	養老7	三世一身法を定める
		741	天平13	全国に国分寺、国分尼寺建立の詔を下す
		743	天平15	墾田永代私有を認める
		758	天平宝字2	新羅渡来人の僧俗74人を武蔵に移し新羅郡（後の新座郡）を置く
		764	〃8	入間郡の物部広成、足立郡の丈部直不破麻呂らが恵美押勝の乱鎮定に活躍
		767	神護景雲元	足立郡の人丈部直不破麻呂らに武蔵宿禰を賜姓、武蔵国造とする
		771	宝亀2	武蔵国を東山道より東海道に移す
	平安	794	延暦13	都を京都（平安京）に移す
		806	大同元	三芳野神社大同年間に造られる（伝）
		830	天長7	慈覚大師円仁、星野山無量寿寺を開く（伝）
		833	〃10	多摩、入間郡境に悲田所を設け旅行者の飢病を救う
		861	貞観3	武蔵国の郡ごとに検非違使を置く
		894	寛平6	遣唐使を廃止する
		935	承平5	平将門関東に乱を起す（～940）
		1016	長和5	藤原道長摂政となる
		1086	応徳3	白河上皇院政を始める
		1113	永久元	常陸など5か国国司に武蔵横山党討伐を命じる
		1156	保元元	保元の乱起る 河越氏、仙波氏等源義朝に従って上京する
		1159	平治元	平治の乱起る
		1160	永暦元	このころ川越地方に荘園が河越氏によって開かれる 河越荘が後白河上皇により京都の新日吉社領に寄進され、河越重隆が荘司となる
		1167	仁安2	平清盛太政大臣となり平氏全盛に向かう
		1180	治承4	源頼朝伊豆で挙兵 河越重頼、頼朝と戦い、その後帰服する
		1182	寿永元	河越重頼の妻、源頼家の乳母となる
		1184	元暦元	河越重頼の娘、義経の妻となるため上洛
		1185	文治元	平氏滅ぶ 源義経の反により河越重頼の所領没収される
		1187	〃3	重頼の妻、河越荘の旧領を安どされる
中世	鎌倉	1192	建久3	源頼朝征夷大将軍となる
		1194	〃5	河越氏年貢を滞納する
		1203	建仁3	比企能員、北条氏に殺される 武蔵諸士、北条時政に忠誠を誓う
		1221	承久3	承久の乱起る
		1226	嘉禄2	河越重員、武蔵国留守所総検校職となる
		1232	貞永元	御成敗式目を制定する
		1260	文応元	河越経重、河越庄新日吉山王社に銅鐘を奉納する
		1274	文永11	文永の役（元軍九州に来襲）
		1281	弘安4	弘安の役（元軍再び来襲）
		1301	正安3	星野山仏地院(中院)、関東天台宗の本山として勅許あり
		1333	元弘3	新田義貞兵をあげ鎌倉幕府を滅ぼす
	室町	1334	建武元	建武の新政
		1335	〃2	北条時行、女影原(現日高市)・小手指原(現所沢市)で足利直義軍を破る
		1336	建武3 延元元	後醍醐天皇、吉野に移る（南北朝分裂）
		1338	暦応元 延元3	北朝・足利尊氏を征夷大将軍とする
		1342	暦応5 興国3	喜多院に「暦応五□□卯月十五日」の青石塔婆が建てられる
		1349	貞和5 正平4	足利基氏、鎌倉公方となる
		1352	文和元 正平7	足利尊氏、新田義宗軍を小手指原などで破る
		1353	文和2 正平8	足利基氏、入間川に陣をはる
		1368	応安元 正平23	平一揆、武州河越に立てこもり鎌倉公方に背き、敗れて伊勢に走る
		1392	明徳3 元中9	南北朝合一
		1438	永亨10	上杉憲実、足利持氏を入間川に破る
		1457	長禄元	上杉持朝の家臣太田道真・道灌、河越城を築く
		1467	応仁元	応仁の乱起る
		1470	文明2	太田道真、宗祇・心敬等を河越城中に招き連歌会を催す（河越千句）
		1477	〃9	長尾景春、上杉氏に背き鉢形城にこもる
		1486	〃18	太田道灌、上杉定正に相模の糟屋にて殺される 道興准后、入間郡内を巡遊
		1495	明応4	北条早雲、小田原城を奪う
		1518	永正15	河越城主上杉朝良、江戸城で没す
		1535	天文4	北条氏綱、河越城主上杉朝興を攻める
		1537	〃6	河越城北条氏のものとなる。
		1546	〃15	河越夜戦にて北条氏康、上杉朝定を滅ぼす
		1563	永禄6	武田信玄・北条氏康ら松山城を落とす
		1573	天正元	室町幕府滅ぶ
近世	安土桃山	1574	〃2	上杉謙信、武蔵に進出鉢形城を攻める 元亀、天正ごろ川越に市が立つ
		1582	〃10	太閤検地始まる
		1588	〃16	北条氏照、高麗郡の山伏に軍役を命じる 秀吉刀狩りを行う
		1590	〃18	豊臣勢河越城を降す 秀吉全国を統一する
		1591	〃19	川越城主酒井重忠、城下に新宿を立てることを許す
		1592	文禄元	秀吉朝鮮に兵を出す（文禄の役）
		1595	〃4	酒井忠利、氷川神社に上田1反を寄進する
		1597	慶長2	秀吉再び朝鮮に兵を出す（慶長の役）
		1599	〃4	天海、喜多院の第27世となる
		1600	〃5	関ヶ原の戦い
		1601	〃6	家康、忍・川越辺りに鷹を放つ
	江戸	1603	〃8	家康、征夷大将軍となり江戸幕府を開く
		1605	〃10	家康、川越から忍辺りに鷹狩りをする
		1612	〃17	家康、喜多院に300石寄進
		1615	元和元	大阪夏の陣、豊臣氏滅ぶ 武家諸法度を制定する
		1617	〃3	久能山から日光へ移送の家康の遺骸を喜多院にて供養する
		1625	寛永2	三代将軍家光、川越で鷹狩りを行う
		1633	〃10	天海、仙波東照宮創建
		1635	〃12	参勤交代の制度が確立する 外国船の入港を長崎に限り、日本人の海外渡航を禁止
		1637	〃14	島原の乱起る
		1638	〃15	川越大火（喜多院、東照宮類焼） 江戸城紅葉山より御殿を喜多院に移築する
		1639	〃16	ポルトガル船の日本渡航を禁止する（鎖国の完成）
		1640	〃17	仙波東照宮再建なる 岩佐又兵衛勝以の三十六歌仙絵額を東照宮に奉納する
		1649	慶安2	慶安の御触書を公布
		1651	〃4	上・下新河岸取り立てられる（寺尾河岸場由来書）
		1653	承応2	松平信綱、野火止を開墾する
		1655	〃4	松平信綱、家臣の安松金右衛門に命じて野火止用水を開さくさせる
		1661	寛文元	川越領新開地の検地を行う
		1665	〃5	徳川家綱、東照宮に200石の朱印状を与える
		1666	〃6	川越藩と武蔵野農民とが入会地を争い訴訟に及ぶ
		1680	延宝8	入間川の河道を変更し荒川に落流させる
		1694	元禄7	川越藩主柳沢吉保、三富新田の開発を命じる
		1699	〃12	上松郷に市が立つ
		1702	〃15	喜多院鐘楼門の銅鐘ができる
		1716	享保元	徳川吉宗が将軍となる 享保の改革始まる（～45）
		1731	〃16	新河岸川五河岸問屋株公認される
		1742	寛保2	関東諸国未曽有の大洪水 久下戸の名主奥貫友山私財をもって農民を救う
		1749	寛延2	「川越素麵」これ以前に成立する
		1751	宝暦元	このころ、入間郡南永井村(所沢市)の名主、甘藷栽培を始める
		1753	〃3	秋元涼朝の家臣太陽寺盛胤、「多濃武之雁」を著す
		1764	明和元	武州・上州の百姓がほう起し、入間郡一帯の名主の家を打ち壊す(伝馬騒動)
		1770	〃7	鈴木三保子、「川越の紀行」を著す
		1772	安永元	田沼意次が老中となる
		1774	〃3	新河岸川五河岸問屋仲間結成される
		1781	天明元	「川越年代記」この頃なる
		1782	〃2	天明の飢饉（～87）
		1787	〃7	松平定信が老中となる 寛政の改革始まる（～93）
		1791	寛政3	横田五郎兵衛が川越藩の御用達となる
		1792	〃4	川越市元町の大沢家の蔵造りができる
		1801	享和元	中島孝昌「武蔵三芳野名勝図会」を著す
		1810	文化7	この年「新編武蔵風土記稿」の編さん始まる
		1818	文政元	「川越松山の記」なる
		1822	〃5	川越付近大洪水になる
		1825	〃8	外国船打ち払い令を出す
		1827	〃10	松平大和守斉典、藩校「講学所(博喩堂)」を開く
		1833	天保4	天保の飢饉（～37）
		1834	〃5	水野忠邦が老中となる
		1837	〃8	大塩平八郎の乱起る
		1839	〃10	荒川堤普請をめぐる蓑負騒動起り、農民たち川越城下にせまる
		1841	〃12	天保の改革始まる（～43）
		1844	弘化元	川越藩、保岡嶺南に命じ「日本外史」を校訂させ、版行する
		1845	〃2	川越藩、安井政章に荒川の大囲堤を築かせる
		1846	〃3	川越城二の丸炎上する
		1847	〃4	幕府は忍・川越藩などに海岸警備を命じる
		1853	嘉永6	ペリー、浦賀へ来航する 忍・川越藩は品川沖台場の防備に当たる
		1854	安政元	日米和親条約を結ぶ
		1858	〃5	日米修好通商条約を結ぶ 安政の大獄起る
		1860	万延元	桜田門外の変
		1861	文久元	勤王の志士西川錬造、江戸伝馬町で獄死する
		1866	慶応2	川越領砂久保村外18か村で農兵新設に反対する強訴が起る 川越藩主松平大和守家が前橋へ移り、棚倉藩の松平周防守家が川越藩主となる
		1867	〃3	藩主松平康英、宮の下（現宮下町）に藩校「長善館」を開く 王政復古を宣言する
近代	明治	1868	明治元	戊辰戦争（～69） 5か条の誓文を出す 振武軍、飯能戦争で官軍に敗れる
		1869	〃2	版籍奉還が行われる
		1871	〃4	廃藩置県　川越県設置（後に入間県となる）
		1872	〃5	学制制定
		1873	〃6	地租改正条例公布 入間県が熊谷県となる
		1876	〃9	熊谷県が埼玉県に合併される
		1877	〃10	西南の役が起る 川越米穀取引所開設
		1878	〃11	郡区町村編制法・府県会規則・地方税規則を制定 第八十五国立銀行川越に設立
		1879	〃12	川越に入間高麗郡役所が置かれる
		1880	〃13	私立川越銀行開行する
		1881	〃14	国会開設の詔勅出る 自由党結成
		1882	〃15	立憲改進党結成
		1884	〃17	群馬事件・加波山事件・秩父事件等起る
		1885	〃18	小仙波村高林謙三、諸種茶業機械を発明し特許を得る
		1888	〃21	市制・町村制公布 私立川越英和学校創立される
		1889	〃22	大日本帝国憲法発布される 川越町発足する
		1890	〃23	府県制・郡制公布 第1回帝国議会開かれる
		1893	〃26	川越大火（1,300余戸焼失）
		1894	〃27	日清戦争起る
		1895	〃28	川越・国分寺間に川越鉄道ができる（後の西武鉄道）
		1896	〃29	川越貯蓄銀行設立される
		1897	〃30	星野女塾開校（現星野女子高校）
		1898	〃31	最初の政党内閣できる
		1899	〃32	県立川越中学校開校（現川越高校）
		1900	〃33	川越商業会議所設立認可される
		1901	〃34	大洪水で入間川の堤防決壊 私立幼稚園開設する
		1904	〃37	日露戦争起る 川越町電話所開設 川越に県下で初めて電灯がつく
		1906	〃39	川越（久保町）・大宮間に電車開通（川越電気鉄道）
		1908	〃41	県立川越染織学校開校（後に川越工業学校と改称）
		1910	〃43	韓国を日本に併合する 未曽有の大供水、県下死者324名、流失家屋1,679戸 大逆事件
		1911	〃44	県立川越高等女学校開校
	大正	1912	大正元	川越地方陸軍特別大演習
		1914	〃3	第1次世界大戦始まる 東上線開通（池袋・川越間）
		1915	〃4	私立川越図書館創立
		1918	〃7	米騒動起る 私立川越図書館、町立となる 原敬の政党内閣成立
		1920	〃9	国際連盟発足 県立川越蚕業学校設立（現川越農業高校） 新河岸川改修工事着工
		1922	〃11	川越町、仙波村を合併し市制を施行（人口約3万1千人）
		1923	〃12	関東大震災
		1925	〃14	治安維持法、普通選挙法公布
	昭和	1926	昭和元	川越商業学校設立認可（現川越商業高校）
		1927	〃2	金融恐慌が起る
		1928	〃3	第1回普通選挙行われる
		1929	〃4	世界恐慌が起る 東上線電化される
		1931	〃6	満州事変が起る 新河岸川舟運に通船停止の県令出る
		1932	〃7	5.15事件起る
		1933	〃8	日本、国際連盟を脱退する 政友会関東大会、川越で開催される 入間川筋の砂利採取反対で川越辺りの農民県庁へ請願のデモを行う
		1936	〃11	2.26事件起る
		1937	〃12	日華事変が起る（日中戦争）
		1939	〃14	田面沢村合併
		1940	〃15	国鉄川越線開通
		1941	〃16	太平洋戦争始まる（～45）
		1943	〃18	第八十五銀行・武州銀行・忍商業銀行・飯能銀行、合併して埼玉銀行を創立
		1944	〃19	川越保健所設置
		1945	〃20	広島・長崎に原爆が投下される ポツダム宣言を受諾、日本無条件降伏
現代		1946	〃21	日本国憲法公布（昭和22年5月3日施行）
		1947	〃22	教育基本法・学校教育法公布　6・3制を実施
		1948	〃23	新制高校発足（県立川越高校・県立川越女子高校・県立川越工業高校・県立川越農業高校誕生）市立川越商業学校は市立高等女学校を合併し、川越市立高等学校となる。
		1950	〃25	文化財保護法公布 喜多院保存修理着工 川越市立高等学校、市立川越商業高等学校と改称
		1951	〃26	対日平和条約・日米安全保障条約調印
		1952	〃27	メーデー流血事件 川越市教育委員会委員第1回公選、川越市教育委員会発足する
		1955	〃30	川越市、周辺9か村と合併
		1956	〃31	新教育委員会法公布（教育委員任命制となる） 日本、国連に加盟する
		1957	〃32	川越・大宮間有料橋（上江橋）開通
		1958	〃33	埼玉県川越職業補導所開設（現県立川越専修職業訓練校）
		1960	〃35	日米新安保条約調印 川越乗用車争議417日ぶりに妥結 川越市、町名地番整理の実験都市に指定される 川越百万灯提灯まつり始まる
		1961	〃36	川越東照宮解体修理完成 東洋大学工学部開校
		1962	〃37	市内（川越局）自動式電話に切り換え
		1963	〃38	市内のごみ定時収集開始
		1964	〃39	市民会館完成　東海道新幹線開業 第18回東京オリンピック大会開催　滝の下終末処理場完成
		1965	〃40	日韓条約調印
		1966	〃41	川越・狭山工業団地造成完成　し尿処理場運転開始(滝の下終末処理場) 川越市霞ヶ関第二出張所開設（現霞ヶ関北出張所）　市立養護学校開校 中央公民館南分館開館（現南公民館）
		1967	〃42	川越城本丸御殿が県指定文化財になる　公害対策基本法公布 埼玉国体開会（川越市はバレーボールと準硬式野球の会場となる）
		1968	〃43	川越の山車10台が県指定文化財になる 都市計画法改正公布（市街化区域と調整区域の設定）
		1969	〃44	学校給食センター完成　川越少年刑務所が南大塚に移転完成
		1970	〃45	日本万国博覧会開催（3月14日～9月13日） 川越市が文化庁の文化財愛護モデル指定地区になる 川越市婦人会館が新設開館　日米新安保条約自動延長
		1971	〃46	川越市予防歯科センター開設 大沢家、国の重要文化財に指定される　老人会館（現後楽会館）完成 市営母子寮開設　伊佐沼畔に市民の森できる 円大幅切り上げ（1ドル360→308円）
		1972	〃47	川越市と福島県棚倉町との友好都市調印式　沖縄返還なる 川越市山の家完成（都幾川村）　市役所新庁舎完成 日中国交回復締結調印 県立川越養護学校開校（大字古谷上）
		1973	〃48	仙波浄水場運転開始　市立診療所を小仙波町二丁目に新築統合 この年、オイルショックと異常インフレ起こる
		1974	〃49	国土利用計画法公布　川越環状線開通（市街地の完全バイパス化達成） 川越武道館開館 県立川越福祉センター新築完成（川越市南公民館・南連絡所併設）
		1975	〃50	県立川越南高校開校　川越市海の家開設（千葉県山武郡蓮沼村） 県立川越図書館新築開館
		1976	〃51	市立みよしの授産学園開園（精神薄弱者通所授産施設） 市営火葬場の改築なり、川越市斎場と命名
		1977	〃52	戸田川越荘オープン（静岡県田方郡戸田村）　蔵造り資料館オープン
		1978	〃53	寺尾小・霞ヶ関西小開校　名細公民館・出張所が新築移転 西清掃センター本運転開始
		1979	〃54	西後楽会館オープン　「わが街川越」放送開始　県立川越西高校開校
		1980	〃55	保健センターオープン　鯨井中開校 国民年金保養センター「むさしの」オープン〈伊佐沼公園〉
		1981	〃56	広谷小、砂中開校　高階南公民館開館 国道254号バイパス開通（川越・富士見間）
		1982	〃57	“ふるさと歩道„がオープン　新宿小、野田中開校 市の木、市の花制定（かしと山吹）　川越百万灯夏まつり始まる 福井県小浜市と姉妹都市提携　市民憲章制定
		1983	〃58	川越市総合計画（基本構想）議決される 川越西小・川越西中・南古谷中・霞ヶ関西中・県立川越初雁高開校 児童センター「こどもの城」オープン　初雁球場ナイター設備使用開始 西独オッフェンバッハ市と姉妹都市の盟約
		1984	〃59	入間大橋開通　前市長加藤瀧二氏の市葬を行う　友好の森林(棚倉町)、契約調印と記念植樹祭　市立図書館オープン 第1号初雁文化章を小林斗盦氏受賞　大東南公民館オープン 河越館跡、国の史跡に指定される
		1985	〃60	高崎市と災害相互応援協定を締結 川越線の全線電化と埼京線の開業　「サンライフ川越」オープン
		1986	〃61	福祉環境整備要綱制定　札の辻ポケットパーク完成 芳野台体育館オープン　消防東分署開設 米国セーレム市と姉妹都市の盟約　東清掃センター完成
		1987	〃62	窓口事務のオンラインスタート　東上線と有楽町線の相互直通運転開始 市内11農協が合併、川越市農協発足　第三セクター川越都市開発㈱発足
		1988	〃63	さいたま博覧会開催　県営川越水上公園オープン　川越西文化会館完成 川越商業高校が姉妹都市セーレム市ノースセーレム高校と姉妹校に 初の川越市民栄誉章を田部井淳子氏・牛窪多喜男氏受章
	平成	1989	平成元	小畔の里クリーンセンターが運転開始　川鶴連絡所オープン 川鶴公民館オープン　農業ふれあいセンターオープン　消費税導入 国民文化祭さいたま89開催　川越市都市景観条例施行　家老詰所が復元
		1990	〃2	市立博物館オープン　川越橋開通　伊佐沼で第1回小江戸花火大会 「アトレ」オープン(南連絡所移転)　人口30万人突破 防災行政無線放送開始　市総合計画後期基本計画策定
		1991	〃3	田部井淳子さんが六大陸最高峰登頂に成功　川越駅東口再開発事業終了 小室保育園開設　笠幡駅前自転車駐車場オープン　脇田歩道橋開通 川越総合卸売市場株式会社設立　川越駅西口土地区画整理事務所設置 本川越駅ビル完成　本川越駅証明センターオープン 北公民館オープン　川越ケーブルテレビジョン(KCV)開局
		1992	〃4	伊勢原町誕生　高階土地区画整理事務所設置　かわごえ友愛センター開設　川越献血ルームオープン　やまぶき会館完成 大沢家住宅復元工事完了　学校週5日制度スタート 一番街の電線地中化工事完了　川越運動公園陸上競技場オープン 桜づつみモデル事業着手　城下公園庭球場オープン 市制70周年記念式典　市の鳥「雁」に決定
		1993	〃5	舟橋功一市長就任　女性懇話会スタート　川越景観百選決定 目安箱設置　川越大火百年　キュービック百景決定
		1994	〃6	かねつき通り電線地中化工事完了　ジョイフル(南文化会館)オープン 川越親水公園オープン　川越西消防署開設　市政懇談会スタート 埼玉川越総合地方卸売市場営業開始
		1995	〃7	阪神・淡路大震災　オアシス(川越市総合福祉センター)オープン 川越運動公園総合体育館オープン　霞ヶ関駅南自転車駐車場オープン パスポートセンター川越支所オープン　製造物責任法(PL法)施行
		1996	〃8	川越運動公園テニスコートオープン 市内循環バス「川越シャトル」運行開始　第二次川越市総合計画実施 小ヶ谷老人憩いの家・高階北老人憩いの家オープン 霞ヶ関東老人デイサービスセンターオープン 「時の鐘」が残したい日本の音風景百選(環境庁)に選ばれる インターネット・ホームページを開設 自動交付機で住民票の写し・印鑑登録証明書を発行 登録文化財制度発足「あさひ銀行川越支店(旧八十五銀行)」が本県第1号の登録文化財となる
		1997	〃9	基礎年金番号スタート　ロシア船籍タンカー「ナホトカ号」油流出事故 「クレアモール」の電線類地中下一部完成　情報公開制度スタート 並木大クス公園オープン　菅間緑地オープン 住宅用太陽光発電システム設置援助スタート 河川橋梁長さ日本一「上江橋」完成　川越市行政手続条例施行 小江戸サミット川越大会開催　川越市オンブスマン制度スタート
		1998	〃10	岸町健康ふれあい広場オープン　市政への提案ファックス設置 節電(省エネ)・新エネルギー自治体サミット開催
		1999	〃11	川越市総合保健センターオープン 川越市川越伝統的建造物群保存地区を都市計画決定

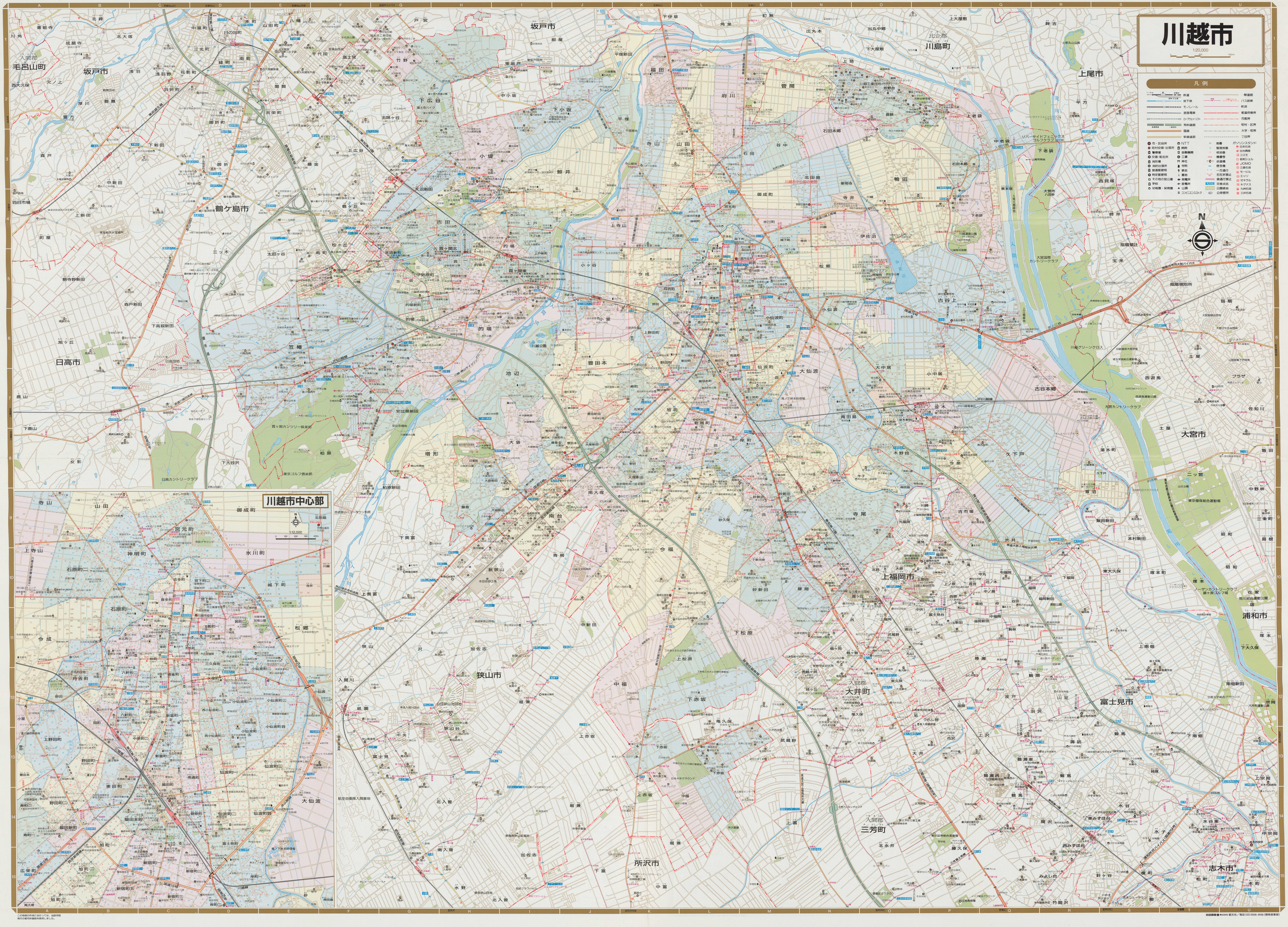
この年表は、歴史学研究会編「日本史年表」「川越商工会議所七十五年誌」などを参考にし、文化財保護課・市立図書館資料係の協力をいただき作成しました。

ガラス使用

川越市

1:20,000

0 500 1000m


坂戸市
川島町
上尾市
毛呂山町
鶴ヶ島市
日高市
大宮市
上福岡市
大井町
富士見市
浦和市
狭山市
所沢市
三芳町
志木市
川越市中心部
1:12,000
0 100 200 300 400m
N
御成町
氷川町
城下町
北田島
寺井
川越
柏原
東京ゴルフ倶楽部
的場
笠幡
小堤
鯨井
伊佐沼
古谷上
古谷本郷
大仙波
南大塚
今福
寺尾
下松原
至英IC
至所沢IC
至朝霞

凡例

トンネル 駅 計画中 貨物・引込線	鉄道		一般道路
	地下鉄	民間 川越シャトル	バス路線
	モノレール		航路
	路面電車		都道府県界
	ロープウェイ・リフト		市郡界
高速国道 一般有料	有料道路		町村・区界
	国道		大字・町界
	幹線道路		丁目界

- ● 市・区役所
- ● 町村役場・出張所
- ☒ 警察署
- ⊗ 交番・駐在所
- 消防署
- 消防出張所
- 普通郵便局
- 特定郵便局
- □ その他の官公署
- 学校
- 幼稚園・保育園
- NTT
- 病院
- 金融機関
- 工場
- ⛩ 神社
- 寺院
- ✝ 教会
- ⊥ 墓地
- 発電所
- 変電所
- ▲ 山頂
- Ⓒ コンビニエンスストア
- 123 地番
- 12 整理地番
- 12 枝地番
- 12AB 棟番号
- 歩道橋
- ∞ 信号機
- ← ← 一方通行
- 右左折禁止
- 車通行禁止
- 札の辻 交差点名
- ▨ 公園緑地
- WC 公衆便所

ガソリンスタンド
- 日本石油
- 出光興産
- コスモ
- 昭和シェル
- JOMO
- 三菱石油
- Mo モービル
- Es エッソ
- ゼネラル
- キグナス
- 九州石油
- 三井石油

この地図の作成に当たっては、当該市町
発行の都市計画図を使用しました。

地図調製● 株式会社 昭文社／電話（03）3556-8156（開発営業部）

ガラス使用